

## 航空機による2018年11月22日の口永良部島の火口観察

11月22日にセスナ機で口永良部島の火口観察を行った(図1)。口永良部島上空での滞在は11時から12時15分の約1時間15分間であった。新岳火口内部および西側割れ目周囲には白色の噴気が認められた(図2, 3)。古岳の火口底南西側にも微小な白色の噴気が確認された(図4)。また11時53分頃から12時15分頃には、新岳火口から火山灰を含む噴煙(火口縁上100~200m程度)が間欠的に放出された(図5)。

2015年7月7日と比較すると、新岳西側割れ目周囲の噴気については、位置はほとんど変化なく噴気量はやや減少していた。また新岳火口リムは2015年との比較では顕著な地形変化は認められなかった。新岳火口底で噴煙の放出が発生していると考えられる。

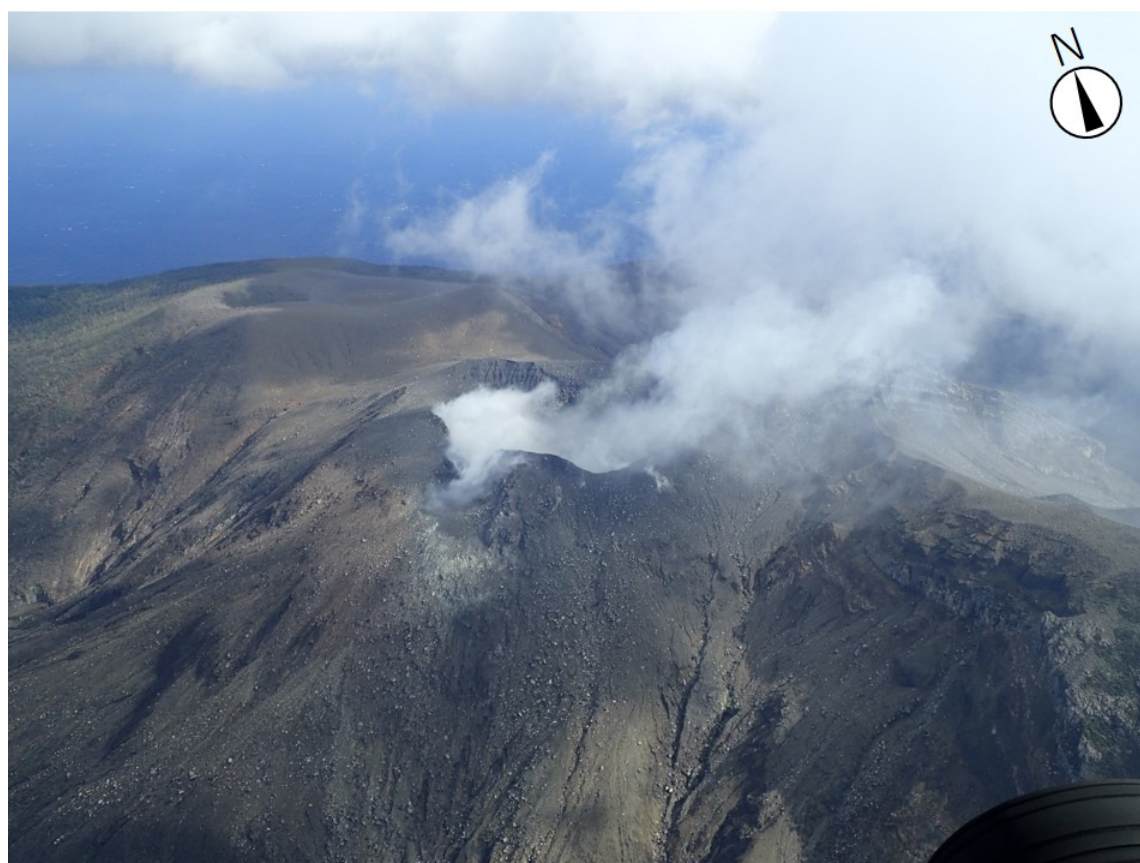


図1. 2018年11月22日11時7分の口永良部島の新岳付近の様子。火口内部に白色噴気が認められる。



図 2. 2018 年 11 月 22 日 11 時 10 分 (左図) と, 2015 年 7 月 7 日 13 時 46 分 (右図) の口永良部島の新岳西側割れ目付近の様子. 黒色矢印は同一地点の噴気を示す. 2015 年と比較すると 2018 年は噴気量がやや減少した.



図 3. 2018 年 11 月 22 日 11 時 14 分の口永良部島の新岳の様子. 写真右端が西側割れ目付近.



図 4. 2018 年 11 月 22 日 11 時 12 分の口永良部島の新岳（写真奥）と古岳（写真手前）の様子。古岳には南西側の火口底に少なくとも 5 か所の噴気が認められる。



図 5. 火山灰を含む噴煙が口永良部島の新岳から時おり放出された(2018 年 11 月 22 日 12 時 02 分)。